

視察報告書 町田市議会 個人視察（保守連合） 吉田つとむ
視察先 清溪セミナー 日本青年館
実施日 平成26年11月13日 地方議会と議員のシンポジウム

日本青年館で開催される第19回清溪セミナーに前日に続き、2014.11.13は2日目の清溪セミナーに参加しました。超党派地方議員130名が参加しての会議でした。

最も、私は数少ない東京の議員であり、昨日、町田市都市計画審議会があり、その会議に委員出席するために、午前のセミナーを欠席した次第です。堂本暁子元千葉県知事の2時間半にわたる講演が聞けなかったのは残念なことでした。

午後、「地方議員と議会の実情」のシンポジウム、東北福祉大学特任教 福岡政行氏の講演を聴きました。まず、「地方議員と議会の実情」のシンポジウムに関して記載します。

コーディネーターは、メンバーの白井えり子 愛知県日進市議会議員でした。活動的でパワフル（最低当選得票数の5倍獲得のパワー）で、かつ、日頃から勉強 熱心な議員であり、この日も事前によく、予習をしていました。ちなみに、白井議員はもとより私より下の年齢ですが、その白井議員と一緒にいると吉田つとむ は自然にスタッフのように振舞ってしまいます。大げさに言えば、左治を任じています。



さて、パネルディスカッションの講師は、両角穰都議会議員（八王子市選出、

みんなの党 TOKYO 幹事長) と竹信三恵子氏 (和光大学教授) でした。地方議会とその議員は、今年は珍しく、光が差す (太陽光でなく、LED 光) 年でした。ただし、その全てがスキャンダルの問題 (セクハラ～政務活動費不正使途～ 麻薬など) が報道される年でした。とは言え、地方議員としては若干の知名度があると自負する私など、1 件の取材を受けたことはありません。おもしろ、おかしな話題を提供できないためでしょう。町田市議会に関連ある新聞の不当記事 (読売新聞など) に対して、クレームをつけるのが関の山です。*2014 年 8 月 4 日放映の「ビートたけしの TV タックル」の出演経緯はひよんなことでの事であり、それにしてもそこで話したことの重要性は多くの人々が認識してくれても、私の言い分に関係する取材は皆無です。要するに、私の話は「面白くない」と言うものでしょう。



ところで、その両角穰都議会議員は、所属する都議会議員が本会議の質問中に、セクハラ発言を受け、それを本人が SNS などで話題化し、しかも、メディアにも取り上げられたことで話題になり始めました。とかく密室的と言われる、都議会内で、両角穰都議は「みんなの党 TOKYO 幹事長」として、議会運営委員会 理事として重要な立ち回りをひるまずに取り組んだ姿勢が評価されるものでした。都議会は、議会運営委員会理事会が重要なポジションを締めており、審議のプロセスは大半がその場や、関係者で協議されているようです。東京都に比べると、はるかに小さな規模ですが、町田市議会では、大半、会派の代表者と議会運営 委員会の役職者は別途に構成されています。その点が、東京都議会の特徴でしょう。

政務活動費の使途に関して、参加者から多くの質問が寄せられました。額が

月間 60 万円であると改めて説明を受けると、参加者はため息が見られました。参加者の大半が、月に数万円程度の支給であり、その制度を取っていない議会もあります。都議会では、その政務活動費の使途に関して、議会事務局が調べた上に、さらに第三者委員がチェックを行い、事務所費や人件費の使途には、約半分の費用しか当てられないように限定されているとのことでした。また、会合の飲食費には政務活動費を用いないようにしている会派もあり、「みんなの党 TOKYO」も飲食費には使用しないとのことでした。広報費の使途を含め、今後改善の動きがあるものと感じました。

次いで、竹信三恵子氏（和光大学教授）は、女性の役割、社会進出の意義の視点で講演されました。ご自身は、新聞記者として活躍され、現在は上記の大学教授として活躍されています。

日本は、世界で女性の社会進出が少なく、その評価は世界で 109 位だとされました。会場は男性議員が大半で、女性議員が皆無の議会参加者もありました。その面では、議会に女性議員を意図的に増やすこと、あるいは女性 3 割以上のクォーター制（*四分の一の意味では無い）が必要とされる説明には、当初、戸惑いも見られました。ただし、企業で女性の比率が少ないことで、女性に理不尽な事態が発生しても全体の共感が盛り上がり、その当事者が排除され続ける状態になっていることが述べられました。とりわけ、セクハラが発生にも無関心がはびこっており、その当事者の方が排除される不合理さが説明されました。

3 分の 1 を超えてこそ、少数者の意見を反映できるものであり、少数だとその存在を無視されると言う話でした。今回、セクハラ問題が大きく取り上げられたのは、安倍内閣が女性の活躍を主張していた中で、起きた事例なのでこれだけ話題が広がったのだろうと言う説明がありました。思うに、いくつかの調査が報告されていますが、それらが幅広い話題として取り上げられることはほとんどありませんでした。今後は、いくつもの変化が起きるでしょうが、「問題あり」と考えられる時は、すかさず、その場で発言を「問題化する」スタンスが必要で、相互の意思疎通を図ることが重要と思いました。竹信三恵子氏の発言中に、会場に苦笑的がありました。すぐに、講師の指摘もあり、かつ、会場内からその理由も提示され、経緯の意思疎通が図られました。今回のパネルディスカッションの講師の資質が高かったこと、及び、コーディネーターの白井えり子日進市議会議員が、まさに、社会進出を果たしてきた存在であったこ

とが、この場の発言が部分的な話題でなく、議会や社会構成全体に関する内容だと理解されるものとなったと考えました。